

産業道

岡部鐵工所 岡部 繁



◇序言

道を論ずる事は、道を實行するものに許されたるものと考へる事が、正しく思ふ。實行なきものは、道を修得する爲めに教を請くる事、修練をなす事が最も大切であると思ふ。

「願」かくて活けるものは「活ける」と教へられた事がある。活きて活き甲斐あり、死して死に甲斐ある。天業を修得するは「願ひ」の一端を述べたのである。

「願ひ」とは何ぞや。宇宙万物皆天命がある。無意味に此の世の中に存在するものは一つもない。天命を正しく遂行して行く處に、其の命の尊さもあり、存在価値もある。如何なる大高層でも、終極に活用されないならば、其の存在価値はないばかりでなく、却て其場所に対しては邪魔になる。其他如何なる物でも皆さうである。殊に此の世の中に最高の天命を課せられた生を受けて居る人間が、世の御役に立つ事が出来る。

と云ふ一角より破壊又は衰退せしむる原因をなし、天業遂行の反逆である事を知らなければならぬ。家の義務。一家の義務は夫兄弟が、親を中心として各人に與へられたる。家庭人としての天命を正しく遂行し、各々親の徳を履み、子孫に對するの責任と義務を省みて行く處に(家の義務と幸福)がある。即ち眞に家と國家の一部門を代表し得ると同時に、國家の一分子としての天命遂行者であるが故に、國家に於けるべきならぬ。家となり、天賦無窮の存在価値は茲に生ずるのである。

産業の使命。産業にしても、天賦無窮の國家の一部門を正しく代表し得る處に天賦無窮の存在価値があれば、尊さもある。存続の利益を得んが爲め、産業の使命、國家を産業確立の方便とするものである。其の結果をなして居るものがあるならば、それは確立する事、擴大される事によつて、國家と國民に及ぼす損害を、加速度的に増大されて行くであらうと思ふ。

國民道の確立。此天業を興すべき天命を課せられたる日本國民は何人に平等に天賦無窮の實したる。誤りなき、道が先立って居る。其道に立つて、あらゆる部門を要すべきものと思ふ。

道に立つての努力。即ち國民全體が、此精神により、其立場に照し、正しく與へられたる今日、天命を遂行する處に、天賦無窮の根本を確立するのである。此精神の確立によつて、事業の神聖、労働の神聖なる事を知り得る處に、天賦無窮の、産業道の確立である。

天賦無窮の皇道皇業。天賦無窮の皇業に、正しく努力するものには、それ相當の部門が與へらるべきものと思ふ。而しては、自己陶酔に陥る努力の結果は、嚴に戒めなければ、其の害、蓋し大なるものがあり、他の正しき力迄も削減する結果となる事考へねばならぬ。天賦に背く處には永久性が無い。永久性のないもの如き感あつても、結局は天賦無窮の國家には、家庭たりと産業たりと、政治たりと、経済たりとを問はず、密にこそあれ、益のないものであり、更に色々の形に於て、悪因をなす種々の力を殘す事に氣を付けなければならぬ。労働問題にしても、経営者、

を譲り、其道によつて上下心を一にし、其道を本として子孫に對する務めを果さんと努力して來られた事が今日の日本の姿である。此委こそ、國民の姿である。國民道の確立であつた。

支那事業の原因。即ち此國民道こそ、各部門により、夫々産業道となり、政治道となり、官道となり、教育道となり、経済道となるこれらのあらゆる委が、天賦無窮の天賦無窮の道である。

明治の初期以來、外國崇拜によつて、此根本道を忘れんとした事、日本を忘れんとした事である。其結果として、僅かの年月の間に今日色々々の行詰り、横みを生じて居る事を深く痛感する必要がある。同時に、今日の非難は、正しく其天啓であるとも考へねばならぬ。

故に日支事變に於いて、世界人の驚異の間に速戦速勝なつてある事は、間に慶祝すべき事であるが、又今日ある原因と、皇軍將士の勞苦を深く省みなければならぬ。支那より大に考へねばならぬ。言行一致が大事。

僅かの隙があつてさへ、此大なる結果は吾人の眼前に展開されて居る。今日、英國、米國、露國、佛國等の種々なる策謀を見る處に、

國民全體が、正しく自己の立場及天命を認識して、今日の道を完成し、以て眞の結びをなさねばならぬ處に、御神慮があると思ふ。此非常時に於て、大言壯語は、禁物である。要は、國民全體が各々自己の天命に忠實に實踐を行なひ、空理空論を排棄して、眞に、言行一致をなす事である。

産業道。吾人産業人は、皇道國家の産業を護るべき大なる天命を課せられて居る以上、各部門は、道に立つて經營されて居るか、否かを省みなければならぬ。如何なる場合でも、自己陶酔をしてはならぬ。正しく自己を認識せなければならぬ。自分こそ正しく認識し得ずして、他人を見る明くない事は勿論の事である。

先づ自己を見よ、自己の立場を見よ、自己の事業を見よ、而して他人を見る時に、其中に、進展も向上も見出し得ると思ふ。殊に産業道の確立は、人的問題のみでなく、産業の根本方針が道に立つて居るべきならぬ。如何なる事業でも、其道に叶つて居てこそ、國家に對する存在価値がある。

即ち事業の根本道が確立して居る所に、人的の道も、其上に正しく存立して行く事が出来る。正しきもののみが結果出来る。

故に人的關係に於ては、経営者それが役に立たざる許りでなく、遂には形迄も破壊して終ふのである。人間も、精神の破壊は、態度となつて現れ形の上に逸奪き人間性を失ひ、動物性を帯びた、活動人形の骸となるのである。グダグダの砂は、如何にも多く積んだとて、何等の力を現はし得ない。而して、セメントと云ふ結合力によつて、如何なる外力にも對抗し得る、岩石同様のものとなると同時に、大なる役割をなす事も出来る様になる。即ち、自己の立場の側面のみならず、此のセメントなき砂の如きもので、何等の働きをなす事も出来ぬ。破滅である。

如何なる事業も各部門の人が集まつて完成される。経営者のみにては、労働者のみにては、其目的は達成し得ない。各人の働いた力は云ふものは海に微力の問題にならぬ。生存する事、許されないのである。それが五人、十人、百人と集まる處に、大なる力が發生して如何なる大事業も達成し得る。而して吾人の欲する集團とは、融合一體となり得る。集團の結合は云ふものにして、幾人集まらなれば、相互の間に對立抗争をなし、自己擁護のみを事とするならば、それは結果として無力である許りでなく、破壊である。我日本國民は、究極する處、總ては、天皇に歸一する。生命も

財源も、上、陛下に屬し奉ると云ふ千古不磨の大原則は、國家組織の根柢をなして居ると同時に、國民の信仰である。産業道は天賦無窮の皇道である。即ち國民全體が、此精神により、其立場に照し、正しく與へられたる今日、天命を遂行する處に、天賦無窮の根本を確立するのである。此精神の確立によつて、事業の神聖、労働の神聖なる事を知り得る處に、天賦無窮の、産業道の確立である。

天賦無窮の皇道皇業。天賦無窮の皇業に、正しく努力するものには、それ相當の部門が與へらるべきものと思ふ。而しては、自己陶酔に陥る努力の結果は、嚴に戒めなければ、其の害、蓋し大なるものがあり、他の正しき力迄も削減する結果となる事考へねばならぬ。天賦に背く處には永久性が無い。永久性のないもの如き感あつても、結局は天賦無窮の國家には、家庭たりと産業たりと、政治たりと、経済たりとを問はず、密にこそあれ、益のないものであり、更に色々の形に於て、悪因をなす種々の力を殘す事に氣を付けなければならぬ。労働問題にしても、経営者、

協働の努力。天賦無窮の皇道皇業に、正しく努力するものには、それ相當の部門が與へらるべきものと思ふ。而しては、自己陶酔に陥る努力の結果は、嚴に戒めなければ、其の害、蓋し大なるものがあり、他の正しき力迄も削減する結果となる事考へねばならぬ。天賦に背く處には永久性が無い。永久性のないもの如き感あつても、結局は天賦無窮の國家には、家庭たりと産業たりと、政治たりと、経済たりとを問はず、密にこそあれ、益のないものであり、更に色々の形に於て、悪因をなす種々の力を殘す事に氣を付けなければならぬ。労働問題にしても、経営者、

對立的協働の努力。天賦無窮の皇道皇業に、正しく努力するものには、それ相當の部門が與へらるべきものと思ふ。而しては、自己陶酔に陥る努力の結果は、嚴に戒めなければ、其の害、蓋し大なるものがあり、他の正しき力迄も削減する結果となる事考へねばならぬ。天賦に背く處には永久性が無い。永久性のないもの如き感あつても、結局は天賦無窮の國家には、家庭たりと産業たりと、政治たりと、経済たりとを問はず、密にこそあれ、益のないものであり、更に色々の形に於て、悪因をなす種々の力を殘す事に氣を付けなければならぬ。労働問題にしても、経営者、